

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3214101号
(U3214101)

(45) 発行日 平成29年12月21日 (2017.12.21)

(24) 登録日 平成29年11月29日 (2017.11.29)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 7 D 15/00 (2006.01)

A 4 7 D 15/00

A 4 7 D 13/06 (2006.01)

A 4 7 D 13/06

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2017-4594 (U2017-4594)
(22) 出願日 平成29年10月6日 (2017.10.6)(73) 実用新案権者 514160054
株式会社アールエル
大阪府吹田市南金田2-26-8 N I S
S H Oビル6階
(74) 代理人 100107847
弁理士 大槻 聡
(72) 考案者 吉岡 博己
大阪府箕面市船場東3-11-10-10
2 株式会社アールエル内

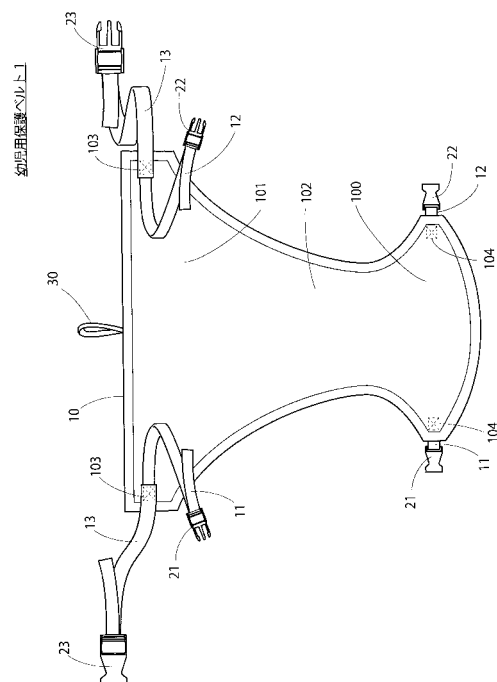
(54) 【考案の名称】 幼児用保護ベルト

(57) 【要約】

【課題】 装着作業及び取付作業を容易に行うことができる幼児用保護ベルトを提供する。

【解決手段】 幼児が装着する装着具と、装着具を支持体に取り付ける取付ベルトとを備え、装着具は、サポートクロス10及び左右一対の装着ベルトで構成され、サポートクロス10は、腹部を支持するフロント部100と、臀部を支持するリア部101と、フロント部100及びリア部101をつなぐ連結部102とを有し、一対の装着ベルトは、幼児の右側を通してフロント部100及びリア部101を連結する右装着ベルト11と、幼児の左側を通してフロント部100及びリア部101を連結する左装着ベルト12とにより構成され、連結バックル21, 22をそれぞれ有し、取付ベルト13は、リア部101の左右両端を連結するとともに連結バックル23を有し、取付ベルト13は装着ベルト11, 12とは異なる色を有し、視覚により互いに識別可能である。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

幼児が装着する装着具と、上記装着具を支持体に取り付ける取付ベルトとを備え、
上記装着具は、サポートクロス及び左右一対の装着ベルトで構成され、
上記サポートクロスは、
上記幼児の腹部を含む前面を支持する幅広の領域からなるフロント部と、
上記幼児の臀部を含む背面を支持する幅広の領域からなるリア部と、
上記幼児の股間を通して上記フロント部及びリア部をつなぐ領域からなる連結部とを有し、

上記一対の装着ベルトは、上記幼児の右側を通して上記フロント部及び上記リア部を連結する右装着ベルトと、上記幼児の左側を通して上記フロント部及び上記リア部を連結する左装着ベルトとにより構成され、分離自在の連結バックルをそれぞれ有し、

上記取付ベルトは、上記リア部の後方を通り、上記リア部の左右両端を連結するとともに、分離自在の連結バックルを有し、

上記取付ベルトは上記装着ベルトとは異なる色を有し、視覚により互いに識別可能であることを特徴とする幼児用保護ベルト。

【請求項 2】

上記一対の装着ベルトの連結バックルを構成する雄パーツ又は雌パーツは、上記取付ベルトの連結バックルの雌パーツ又は雄パーツに対し連結できない形状からなることを特徴とする請求項 1 に記載の幼児用保護ベルト。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、幼児用保護ベルトに係り、さらに詳しくは、支持体への取り付けにより幼児の転落を防止する幼児用保護ベルトの改良に関する。

【背景技術】**【0002】**

椅子や保護者などの支持体に取り付けることにより、幼児の転落を防止する幼児用保護ベルトが従来から知られている。通常の幼児用保護ベルトは、幼児に装着するサポートクロスに 2 以上のベルトを取り付けて構成される。例えば、サポートクロスを支持体に固定するための取付ベルトに加えて、サポートクロスを幼児に装着するための装着ベルトが設けられている。

【0003】

これらの各ベルトには、分離自在の連結バックルがそれぞれ取り付けられている。連結バックルは、分離自在に連結された雄パーツ及び雌パーツにより構成され、連結バックルを開閉することにより、当該ベルトを分離又は連結することができる。

【0004】

幼児用保護ベルトの使用開始時には、まず、サポートクロスが幼児に装着され、その後、支持体に対しサポートクロスが取り付けられる。サポートクロスの幼児への装着は、装着ベルトの連結バックルを連結することにより行われる。また、サポートクロスの支持体への取り付けは、取付ベルトの連結バックルを連結することにより行われる。

【0005】

このような連結バックルの連結作業は、対となる雄パーツ及び雌パーツを把持し、雄パーツを雌パーツに差し込むことによって行われるが、幼児用保護ベルトが、複数のベルトを備えている場合、正しい組み合わせではないパーツ同士が誤って連結されるおそれがある。また、誤ったパーツ同士が連結できない場合であっても、誤ったパーツ同士を連結しようとして、連結作業に時間がかかるといった問題があった。特に、このような連結作業は、幼児を支えながら行わなければならない、また、連結作業中に幼児が動いた場合に転落の危険もあるため、連結作業は、容易に行うことができ、かつ、短時間で終了することが望ましい。

10

20

30

40

50

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0006】**

本考案は、上記の事情に鑑みてなされたものであり、装着作業及び取付作業を容易に行うことができる幼児用保護ベルトを提供することを目的とする。また、安全性を向上させた幼児用保護ベルトを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

本考案の第1の態様による幼児用保護ベルトは、幼児が装着する装着具と、上記装着具を支持体に取り付ける取付ベルトとを備え、上記装着具は、サポートクロス及び左右一対の装着ベルトで構成される。上記サポートクロスは、上記幼児の腹部を含む前面を支持する幅広の領域からなるフロント部と、上記幼児の臀部を含む背面を支持する幅広の領域からなるリア部と、上記幼児の股間を通して上記フロント部及びリア部をつなぐ領域からなる連結部とを有する。上記一対の装着ベルトは、上記幼児の右側を通して上記フロント部及び上記リア部を連結する右装着ベルトと、上記幼児の左側を通して上記フロント部及び上記リア部を連結する左装着ベルトとにより構成され、分離自在の連結バックルをそれぞれ有する。上記取付ベルトは、上記リア部の後方を通り、上記リア部の左右両端を連結するとともに、分離自在の連結バックルを有する。上記取付ベルトは上記装着ベルトとは異なる色を有し、視覚により互いに識別可能となるように構成される。

【0008】

このような構成を採用することにより、一対の装着ベルトの連結バックルを連結させることにより、サポートクロスを幼児に装着することができ、取付ベルトの連結バックルを連結させることにより、サポートクロスを支持体に取り付けることができる。このため、まずサポートクロスを幼児に装着し、その後にサポートクロスを支持体に取り付けることができるので、幼児用保護ベルトの装着及び取付の作業を容易化することができ、また、安全性を向上させることができる。

【0009】

また、装着ベルト及び取付ベルトの色を異ならせることにより、連結すべきベルトが視覚的に容易に把握することができる。このため、連結バックルの雄パーツ及び雌パーツの組み合わせを容易に把握することができ、誤ったパーツを連結し、安全性が損なわれるのを防止することができる。また、雄パーツ及び雌パーツの正しい組み合わせが直感的に把握でき、連結作業が容易化される。

【0010】

本考案の第2の態様による幼児用保護ベルトは、上記構成に加えて、上記一対の装着ベルトの連結バックルを構成する雄パーツ又は雌パーツは、上記取付ベルトの連結バックルの雌パーツ又は雄パーツに対し連結できない形状からなる。

【0011】

このような構成を採用することにより、装着ベルトの連結バックルの雄パーツと、取付ベルトの連結バックルの雌パーツとを誤って連結するのを防止することができる。また、装着ベルトの連結バックルの雌パーツと、取付ベルトの連結バックルの雄パーツとを誤って連結するのを防止することができる。従って、誤った使用方法により安全性が損なわれるのを防止することができる。

【考案の効果】**【0012】**

本考案によれば、装着作業及び取付作業を容易に行うことができる幼児用保護ベルトを提供することができる。また、安全性を向上させた幼児用保護ベルトを提供することができる。

【図面の簡単な説明】**【0013】**

【図1】幼児用保護ベルト1を展開させて内側から見た図である。

【図 2】 幼児用保護ベルト 1 を展開させて外側から見た図である。

【図 3】 幼児用保護ベルト 1 の使用時の状態を示した斜視図である。

【図 4】 幼児用保護ベルト 1 を幼児が装着したときの様子を示した斜視図である。

【図 5】 幼児用保護ベルト 1 の保管又は運搬時の状態を示した図である。

【考案を実施するための形態】

【0014】

図 1 ~ 図 3 は、本考案の実施の形態による幼児用保護ベルト 1 の一構成例を示した図である。図 1 は、幼児用保護ベルト 1 を展開させて内側から見た図であり、図 2 は、幼児用保護ベルト 1 を展開させて外側から見た図であり、図 3 は、幼児用保護ベルト 1 の使用時の状態を示した斜視図である。

10

【0015】

この幼児用保護ベルト 1 は、サポートクロス 10 と、左右一对の装着ベルト 11, 12 と、取付ベルト 13 と、結束リング 30 とを備えている。また、各ベルト 11 ~ 13 は、分離自在の連結バックル 21 ~ 23 をそれぞれ有する。

【0016】

サポートクロス 10 は、幼児が装着する装着具であり、薄いシート形状からなり、幼児の下半身を包み込むように装着される。例えば、綿織物からなり、その内側にポリエステル製メッシュが裏地として配置されている。表地の綿織物は、全周にわたって縁部が内側へ折り返され、裏地と縫合される。このサポートクロス 10 は、フロント部 100、リア部 101 及び連結部 102 の各領域により構成される。

20

【0017】

フロント部 100 は、幼児の腹部を含む前面を支持する領域であり、幅広のシート形状からなる。例えば、フロント部 100 は、下腹部から臍付近までを覆うように幼児の前面側に配置され、幼児の臍付近から左右の両端に向かって緩やかに下がる曲線からなる上縁を有し、当該上縁から下方に向かうほど幅が狭くなっていく形状を有する。

【0018】

リア部 101 は、幼児の臀部を含む背面を支持する領域であり、幅広のシート形状からなる。例えば、リア部 101 は、臀部から腰部付近までを覆うように幼児の背面側に配置され、幼児の腰部付近において略水平に延びる上縁を有し、下方に向かうほど幅が狭くなっていく形状からなる。

30

【0019】

連結部 102 は、幼児の股間を通してフロント部 100 及びリア部 101 をつなぐ領域であり、フロント部 100 及びリア部 101 よりも幅が狭いシート形状からなる。例えば、連結部 102 は、股下を覆うように配置され、一定の幅、又は、後方に向かって幅が緩やかに広がっていく形状を有する。

【0020】

左右一对の装着ベルト 11, 12 は、サポートクロス 10 を幼児に装着するためのベルトであり、サポートクロス 10 とともに装着具を構成する。これらの装着ベルト 11, 12 は、分離自在の連結バックル 21, 22 をそれぞれ有する。図 1 及び図 2 には、連結バックル 21, 22 が分離され、装着ベルト 11, 12 が分断された状態が示されている一方、図 3 には、連結バックル 21, 22 が連結されている状態が示されている。

40

【0021】

右装着ベルト 11 は、一端がフロント部 100 の右縁近傍の上縁付近に固定され、他端がリア部 101 の右縁近傍の上端付近に固定されている。いずれもサポートクロス 10 に対し、縫合系 103, 104 により縫い付けられている。また、右装着ベルト 11 には、分離自在の連結バックル 21 が設けられ、長手方向の途中で分断することができる。

【0022】

同様にして、左装着ベルト 12 は、一端がフロント部 100 の左縁近傍の上縁付近に固定され、他端がリア部 101 の左縁近傍の上端付近に固定されている。いずれもサポートクロス 10 に対し、縫合系 103, 104 により縫い付けられている。また、左装着ベル

50

ト 1 2 には、連結バックル 2 2 が設けられ、長手方向の途中で分断することができる。

【 0 0 2 3 】

取付ベルト 1 3 は、サポートクロス 1 0 を支持体に取り付けるための手段である。例えば、椅子のバックレストを囲むように取付ベルト 1 3 を連結し、あるいは、大人の腰を囲むように取付ベルト 1 3 を連結することにより、サポートクロス 1 0 をこれらの支持体に固定し、サポートクロス 1 0 を装着した幼児の転落を防止することができる。

【 0 0 2 4 】

取付ベルト 1 3 は、一端がリア部 1 0 1 の右縁近傍の上縁付近に固定され、他端がリア部 1 0 1 の左縁近傍の上縁付近に固定されている。取付ベルト 1 3 の両端は、左右の装着ベルト 1 1 , 1 2 のリア部側の端部とそれぞれ重ねられ、サポートクロス 1 0 に対し同時に縫付処理されている。また、取付ベルト 1 3 には、連結バックル 2 3 が設けられ、長手方向の途中で分断することができる。

【 0 0 2 5 】

連結バックル 2 1 ~ 2 3 は、いずれも雄パーツ及び雌パーツにより構成される。連結バックル 2 1 ~ 2 3 は、雌パーツの先端開口に雄パーツを挿入することにより連結され、連結中の雌パーツの両側開口から露出する雄パーツの一部を押し込むことにより分離される。連結バックル 2 1 ~ 2 3 として、小型軽量の連結具、例えば、樹脂製バックルを用いることができる。

【 0 0 2 6 】

結束リング 3 0 は、リア部 1 0 1 の上縁であって左右方向の略中央に設けられた弾性素材、例えばゴムからなるリングであり、幼児用保護ベルト 1 を収納し、あるいは、持ち運ぶときに使用される。

【 0 0 2 7 】

図 4 は、幼児用保護ベルト 1 を幼児が装着したときの様子を示した斜視図である。この図に示した通り、幼児の右足よりも上側で連結バックル 2 1 を連結すれば、サポートクロス 1 0 の右縁と、右装着ベルト 1 1 とによって、幼児の右足が囲まれる。同様にして、幼児の左足よりも上側で連結バックル 2 2 を連結すれば、サポートクロス 1 0 の左縁と、装着ベルト 1 2 とによって、幼児の左足が囲まれる。このため、装着ベルト 1 1 , 1 2 の長さを適切に調整すれば、容易に脱落しないように、サポートクロス 1 0 を幼児に装着することができる。

【 0 0 2 8 】

図 5 は、幼児用保護ベルト 1 の保管又は運搬時の状態を示した図である。サポートクロス 1 0 をフロント部 1 0 0 の上縁側から巻いていくと、略円柱形状になり、その周面上に結束リング 3 0 が現れる。この結束リング 3 0 の中にサポートクロスを通すことにより、サポートクロス 1 0 が容易に展開しないように結束することができる。このとき、ベルト 1 1 ~ 1 3 もサポートクロス 1 0 内に巻き込んでおくことが望ましい。

【 0 0 2 9 】

右装着ベルト 1 1 のリヤ側端は、取付ベルト 1 3 の右端と重ねられ、両者は、サポートクロス 1 0 に対し、縫合系 1 0 4 により同時に縫い付けられる。また、左装着ベルト 1 2 のリヤ側端は、取付ベルト 1 3 の左端と重ねられ、両者は、サポートクロス 1 0 に対し、縫合系 1 0 4 により同時に縫い付けられる。このため、製造工程を削減し、効率的に製作することができる。

【 0 0 3 0 】

また、装着ベルト 1 1 , 1 2 は、取付ベルト 1 3 とは識別可能となるように構成される。具体的には、装着ベルト 1 1 , 1 2 の色を取付ベルト 1 3 の色とは異ならせ、両者を視覚的に識別可能にしている。また、装着ベルト 1 1 , 1 2 の幅を取付ベルト 1 3 の幅とは異ならせ、両者を視覚的に識別可能にしている。このため、連結させるベルトの組を容易に認識することができる。特に、同じ位置に取り付けられた装着ベルトと取付ベルトを容易に識別することができ、ベルトの連結作業を容易化、迅速化することができる。

【 0 0 3 1 】

また、連結バックル 2 1 , 2 2 と、連結バックル 2 3 との間で、大きさ、形状を異ならせることにより、誤った組み合わせの雄パーツ及び雌パーツが互いに連結されるのを防止している。特に、同じ位置に取り付けられたベルトを取り違えた場合に、誤った組み合わせの雄パーツ及び雌パーツが連結されるのを防止している。

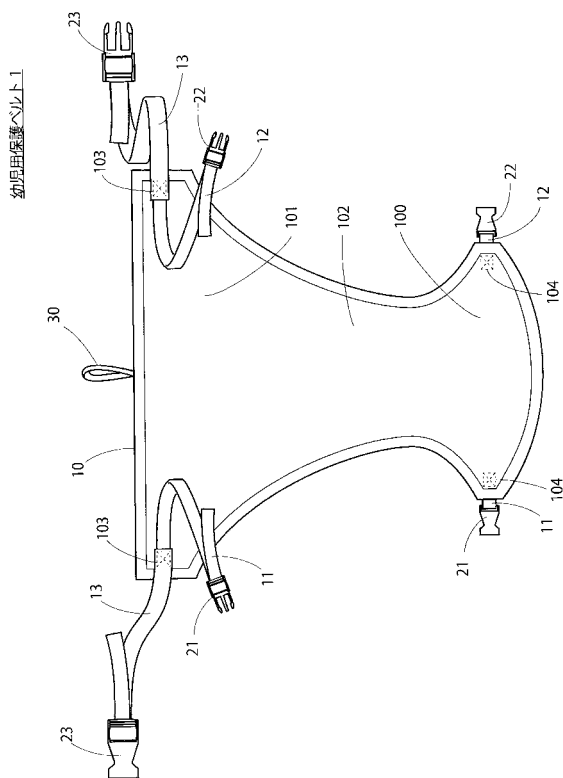
【符号の説明】

【 0 0 3 2 】

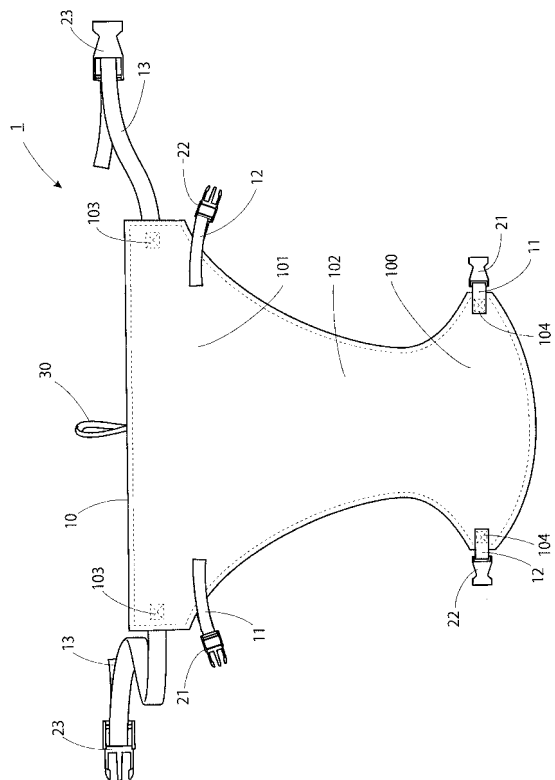
- 1 幼児用保護ベルト
- 1 0 サポートクロス
- 1 1 , 1 2 装着ベルト
- 1 3 装着ベルト
- 2 1 ~ 2 3 連結バックル
- 3 0 結束リング
- 1 0 0 フロント部
- 1 0 1 リア部
- 1 0 2 連結部
- 1 0 3 , 1 0 4 縫合糸

10

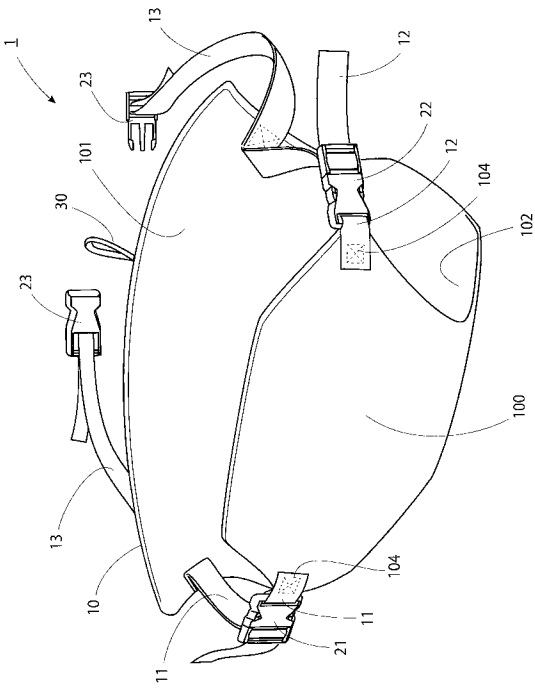
【 図 1 】



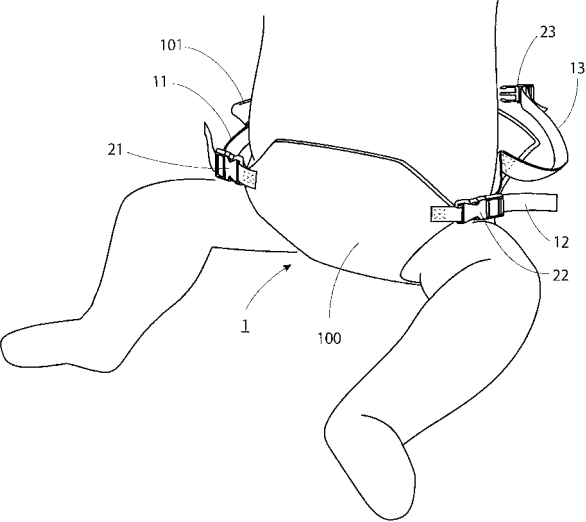
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】

